

医療類似行為による健康被害、5年で1,000例超 | 運動器 | 健康・公衆衛生\_学会レポート\_臨床医学 | 医療ニュース | Medical Tribune...  
← → ↻ 🔍 https://medical-tribune.co.jp/news/2023/010... A 📄 📌 🏠 ...  
検索 マイページ  
Medical Tribune  
🏠 トップページ 最新記事 連載一覧 学会レポート一覧 特設サイト 転職/継承 学会カレンダー

トップ » 医療ニュース » 2023年 » 運動器 » 医療類似行為による健康被害、5年で1,000例超 ▶

[トップ](#) » [医療ニュース](#) » [2023年](#) » [運動器](#) » 医療類似行為による健康被害、5年で1,000例超

## 医療類似行為による健康被害、5年で1,000例超 氷山の一角か

2023年01月06日 14:45  
[クリップ済\(一覧へ\)](#) [021](#)

709名の医師が参考になったと回答 [参考になった](#)

医療類似行為は患者の自覚症状に対して診断は行わず、その症状に応じて施術を行うものであるが、それによる健康被害の報告は少なくない。日本臨床整形外科学会（JCOA）医療システム委員会副委員長を務めるみやざき整形外科（大阪府）院長の宮崎浩氏は、2022年12月4日に開催された令和4年度日本臨床整形外科学会シンポジウムで、同委員会が行った柔道整復師などが実施した医療類似行為に係わる健康被害態調査の結果を報告。「医療類似行為により健康被害を受けた患者は、5年間で1,177例に上った。ただし、氷山の一角かもしれない」と懸念を示した。

### 調査対象はJCOA会員5,771人

柔道整復師は、原因が明らかな骨折、脱臼、打撲、捻挫などに対し整備や固定などの施術を行う。健康保険が適用されるのは、原因が明らかな骨折、脱臼、打撲、捻挫に対してのみである。ところが、適切な診断がされないまま漫然と医療類似行為が続けられ、症状が悪化したり、治療機会を喪失したりするケースが後を絶たない。

📍 宮崎 浩先生のポイント 0pt  
4 📢 eデーター 7 📄 アンケート 1 👤 マイページ  
Web講演会